はたらく女性のフロア通信

発行日　2018年9月25日

NO. 36

はたらく女性のフロアかながわ（WWＦＫ）

〒221-0855　横浜市神奈川区三ツ沢西町８－２５－２０３　本間重子気付

電話／FAX　０４５（３２３）０６５３　E-mail　wwfk@hotmail.co.jp

HP　http://wwfk.jimdo.com/

君嶋千佳子議員の県政報告を聞いて

８月３日、かながわ県民センターで「はたらく女性のフロアーかながわ」第10回定期総会を開催（報告は4ページを参照）しました。

総会終了後、君嶋千佳子さん（会員・神奈川県議会議員）から「神奈川県議会報告」を聞きました。

第10回総会の様子

▼県政が市政に及ぼす影響

私は今まで、横浜市議会の傍聴には行ったことがありましたが、県議会の傍聴には行ったことがありませんでした。県立病院の事以外には、県政の役割について、あまり関心が持てませんでした。今回、君嶋県議の話を聞く中で、県政は、政令指定都市へどういう影響を及ぼすことができるのかを、群馬県の医療費助成制度や大阪府の中学校給食の助成金などの例をあげての説明を受けて、理解することができました。大型公共工事や災害、伝染病対策、児童相談所機能、重度障害者支援などにも県が大きく関与していることも再認識できました。

神奈川県議会の内情については、少し聞きかじってはいましたが、非民主的な実態についての具体的な話を今回直に聞くことができました。ベトナムへの水問題の視察に対する発言にからんで、各党合同の視察から共産党が排除されたことや代表質問権を辞退するように迫られたこと、請願や陳情書の取り扱いなどに、共産党を封じ込めようとする様々な攻撃が他党からあったことなどです。また、政務活動費の使い方も他党は不透明で、ずさんな報告がまかり通っていました。

▼県議会の非民主的運営

そうした中で、県民の要求をより県政に反映させるために、県議会の傍聴制度の改善（現在は、10時前に申し込みをしないとその日の傍聴は認められていない）や、請願・陳情書の取り扱いの可視化（現在は傍聴者や陳情者を締め出し、議事録を止めて請願・陳情書の取り扱い方が決定されている）を共産党が、議会の中で要求してきました。

▼安倍政権を踏襲する黒岩県政

黒岩県政は安倍政権の政策を踏襲し、アベノミクスを評価し、カジノ受け入れに前向きで、米軍基地騒音問題や基地負担軽減については、本気の取りくみ姿勢を持ち合わせてはいないこと、ヘルスケアニューフロンティア政策の「未病」と言う言葉の普及には腐心するが、県民の健康や福祉へ直接支援が届くような実行性は欠如しているなどの特徴がありました。

▼県政の優先すべき役割は住民福祉の増進

共産党県会議員団は、自治体が優先すべき役割は、住民福祉の増進であり、県民に直接支援を届けるようにと一貫して主張しており、文教委員会を担当している君嶋県議は、県立高校老朽化対策予算や県営住宅修繕対策予算の増額をはかってきたこと、県立図書館をＰＦＩ方式で行うことを辞めさせて直営を維持させたこと、私立高等学校等学費補助を前進させたことなどの実態がありました。

我々の生活にもっともっと力になってもらえるように、来年の一斉地方選挙では、共産党の県議団をさらに増員させたいと感じました。

＜報告：中嶋ひとみ（会員）＞

★会員の皆さんの原稿お待ちしています。旅行記、思うこと、趣味、言いたいことなんでも歓迎！

白萩やえくぼのできる友傘寿

旅一日潮風に乗り秋茜

佐知子

君嶋ちか子がゆく⑬
・・・神奈川県議会報告

議場で「質問しろよ！」と大声上げる知事

　９月14日、黒岩知事は、日本共産党の代表質問終了直後、「逃げるのか！」「卑怯じゃないか！」「質問しろよ！」と大声を上げました。知事肝いりのヘルスケアニューフロンティア政策を批判されたことに、激昂したのだろうと思います。

議会への侮辱

●繰り返し大声で発せられた知事の言葉は、休憩時間中とはいえ、本会議場で議員に対して投げかけられたのですから、議会への侮辱であり自律性を侵す行為です。

　共産党県議団は、知事に対してその撤回と謝罪を求めました。議会としての対応も必要だと思いますが、議長、他会派に、その動きはありません。共産党県議団は、知事への申し入れとともに、他会派、議長にも共産党の考え方を伝えました。

●申し入れ後の記者会見には、多くのメディアが参加しました。重ねて出された質問は、「議会としての動きを求めるのか？」「議長への働きかけは？」などでした。いずれも、共産党だけの問題ではないということを示しています。

　私の下にも、議会としての対応が必要という意見が多数寄せられています。これらの声に、神奈川県議会は答えるべきです。

「質問しろよ！」は越権行為

●知事は、共産党には答えず、マスコミにコメントを発表しています。それによると「再質問しない議員の態度に対して抗議したのであり、議員の人格を攻撃したものではない」だから「撤回や謝罪をすべき発言とは全く考えていない」ということです。

　しかしながら、再質問するか否かは議員の裁量であり、再質問しないことは他の議員においてもよくあることです。知事は、抗議が成り立たないことを知るべきです。

　また、知事が議員に質問せよと迫る行為は、質問権の侵害に当たりますが、この事には全く触れていません。この点に思いが及んでいないとしたら、知事と議会の関係について理解が無さ過ぎです。

●かねてから、知事は、地方自治体の役割に対する理解が不十分だと思っていましたが、議会に対する認識の欠如にも驚いています。

　また議場で不当な言葉を大声で上げ続ける、という野蛮さも今回見せつけられました。

　自治体の役割を認識せず、かつ議会との関係を理解しない知事の下で繰り広げられる県政、変えなければなりません。

映画が好き
「愛しのアイリーン」
池田　資子（会員）

　凄いものを観た。くたびれた。というのが正直な感想だが、厭だなという感じはない。

　40歳を過ぎて独身の岩男はパチンコ店で働いている。同居する父親は認知症、母親は岩男を溺愛し、結婚出来ない息子が気がかりで仕方がない。岩男は仕事や職場の仲間との付き合いを適当にこなしているが、どこか不機嫌で刹那的に見える。

　職場の女性に振られた岩男が突然姿を消す。
息子を探し求め村中を駆け巡る母親。一方、岩男はフィリピンのお見合いツアーに参加し、若いアイリーンを嫁として連れ帰る。帰国したのは父親の葬儀の日。岩男とアイリーンは村中の注目を集め、母親は怒り狂う。ここから映画は、息もつかせぬ迫力で進行する。

　母親ツルを演じる木野花の嫁いじめが見もの。猟銃を向けて嫁に迫る。言葉が通じないのをいいことに毒舌をはく。苦手な日本食を食べるように強要する。ある時は雪の中を追いかけ取っ組み合いをする。また、別の女性との結婚話を勧める。これまでの木野花のイメージを完全に覆す怪演振りに圧倒される。

　アイリーンは両親や兄弟を養うために結婚した。この思いはとても強い。天真らんまんに見えるがしたたか。彼女は日本語を勉強し、何とか暮らしに馴染もうと努力をする。岩男もそんな彼女が愛おしいのだが…

　ある男の出現が不幸を引き起こす。フィリピン人の母親を持つ塩崎は人身売買に関与しており、ツルと取引してアイリーン連れ去ろうとする。日本人から取れるだけ金を巻き上げる。塩崎の人生感は説得力をもって私たちに迫る。アイリーンを乗せて逃げる車、追いかける岩男、カーチェイスの末、岩男は猟銃を発砲してしまう。

　事件後、岩男の心は崩れていく。不安をかき消すための過度なセックスシーンには、私は違和感がある。ひとりぼっちのアイリーン。ツルは体調を崩す。共に暮らしながらひとつになれない３人の将来はどうなるのか。銀世界の中を歩いていくアイリーンの姿で映画は終わる。

　原作は1995年～96年に連載された同名の漫画。漫画と映画の結末は違っているらしい。

オスプレイが横浜の空を飛んだ

本間 重子（会員）

去る4月4日、噂の機体オスプレイ５機が神奈川区にある横浜ノースドックに突然陸揚げされた。ご存じのアメリカ空軍輸送機ＣＶ22である。

そして翌日5日11時過ぎ過ぎにノースドックを離陸して、横田基地へと向かった。沖縄に配備されたＭＶ22オスプレイは事故や緊急着陸などのトラブルが相次いでおり、横田基地周辺の住民の不安と共に反対運動も高まっている。

沖縄に次ぐ基地県である神奈川県は横須賀の米原子量潜水艦の母港化、厚木基地（アメリカ海軍と海上自衛隊が共同使用している司令部）など、日米軍事にとって重要な施設があり住民の生活に重大な影響を与えている騒音問題をはじめ、さまざまな基地に由来する問題が戦後73年経った今でも引き起こされているが、オスプレイが船で横浜ノースドックに運ばれ一晩で整備され、ランドマークタワーのすぐ近くを横切って横田へ飛んで行った事はショックだった。さすがに横田へは市街地を避け相模川上空を飛んだとのことである。直前にはもちろん緊急抗議集会がもたれた。

ノースドックは横浜瑞穂埠頭に所在する施設で、この埠頭は本来外国貿易埠頭として建設されたものを、1952年アメリカに接収され安保条約第6条接収地として在日米陸軍が使用してきたものである。毎年横浜市は返還要求をしてきたが、未だに返還されず横浜港の発展にとってもマイナスであるのだが、返還しない理由は、毎年実施されている日米共同演習“オリエントシールド”に不可欠の基地であったのだ。（“オリエントシールド”などノースドックの危険な使われ方については別の機会にゆずります）

ノルウエーのフィヨルドを巡る旅

小島 八重子（会員）

9月5日～14日の10日間ノルウエーを旅した。

成田からコペンハーゲン経由でオスロへ。オスロではノルウエーの民族博物館を見学。ノルウエー各地から集められた北欧独特の民家が立ち並ぶ。その中でも印象的なのがノルウエーの少数民族サーミ（サーメ）族の展示。話はさかのぼるが、1985年にナイロビで世界女性会議が開催された。その時、民族衣装を着て参加していたのが、サーミ民族の女性だった。私の記憶では「サミー民族」と覚えていたが、展示されている衣装をみて思い出し、懐かしく感じた。

ソグネフィヨルドとハダンゲルフィヨルドの2つのフィヨルドを巡るには鉄道・バス・船がセットになったナットシェルという周遊パスを利用。乗り継ぎがスムーズで効率よく回れた。オスロから早朝8時25分発の列車で、ミュダールへ。ミュダールに近づくにしたがって、ツンドラのような風景が広がる。ミュダールからフロム鉄道に乗り換え、フロムへ。このころは紅葉のはじまる季節、草が少し黄色くなりはじめていた。フロム鉄道からの眺めは、氷河が削った急峻な地形で、眼下の谷底が村々が広がる絶景が続く。

フロムではコンドミニアムに3泊。コープで食材を求め、自炊した。ノルウエーに来てから、現金は全く使わない、というより換金する暇もなかったが、クレジットカードとトラベルプリペイトカードだけですべて事足りた。

ソグネフィヨルド

ノルウエーのフィヨルドは、ヴァイキングが航海したせいか、村々が点在し、生活感がする。牧畜がほとんど。ブドウなどの果樹栽培は見かけたが、野菜畑がないのが不思議だ。どちらかというとニュージーランドのフィヨルドの方が自然度は高い感がある。

観光船でなくバスが通る山岳地帯は、日光のいろは坂のように狭い道路をくねくねと絶壁すれすれに走り、スリル満点。丁度、雨が連日降り、フィヨルド独特のにわか滝が出現し、そそり立った岩肌から一気に流れ出す滝が豪快だった。

ノルウエーで気になったことは、オスロでホームレスと思われる路上生活者が。ベルゲンでも黒い衣装をまとった女性が物乞いしている姿を見かけた。ネットで調べると、ロマと呼ばれる少数民族（ジプシー）ではないかと思われる。ノルウエーでは、路上生活や物乞い禁止の規則ができたとも。社会保障の水準の高い国でも、移民など複雑な社会問題の光と影があるのかと思うと、世界的な貧困層の広がりをくいとめる解決の手立てはないものかと考えてしまった。

WWFK第10回定期総会から

総会は伍さんの「医大入学の女性差別、国会議員のLGBTへの「生産性がない」との発言など、異常な日本になっている。その中でも立ち上がる女性たちが増えている」とのあいさつではじまりました。

代表の小島さんから2017年度活動報告及び、2018年度活動方針案の提案がなされ、会計の佐久間さんから2017年度決算報告、2018年度予算案が提案されました。白井さんからは会計監査報告があり、意見交換が行われました。

出された意見は、「決算・予算報告の表記をわかりやすく」「未納などの会員には、継続の意思確認をした方がよいのでは」など。

活動報告、方針、決算、予算とも拍手で承認されました。

閉会のあいさつで村田さんは「国会ではひどい発言が相次でいる。安倍さんを何とかしなければ。今後は会員さんを増やすことも重要。やわらかいテーマで来年もがんばりましょう」との締めくくりがありました。

【2018年度の事務局体制】

代表　小島八重子
事務局　池田資子、佐久間由美子(会計)、
伍淑子、本間重子、中嶋ひとみ、村田泰子
会計監査　白井洸子
編集委員　池田、本間、小島

【今後の方針の具体化】

総会後、第1回の事務局会議を9月20日に開催。出された意見や方針の具体化の検討を行いました。

①決算・予算報告の表記をわかりやすく

現在は「予算額　執行額　差引」だが、調べると、「予算額　決算額　比較増減」や「予算額　収入額（支出額）　増減」などいろいろな表記があるので、選択は会計さんに任せることに。

② 会員交流

- 町田市自由民権資料館、五日市郷土資料館（8月15日～特別展）、日吉地下壕など見学については、五日市郷土資料館に12月２日（日）に実施。
- 非正規労働者問題（公務・介護・保育・図書館・学校など）自治体に新たに「会計年度任用職員制度」が導入される。神奈川労連の自治体調査でも非正規職員の拡大が進んでいる。労連のアンケート調査を（伍さんからいただきました）分析する必要がある。非正規の問題は公務を先に学習する＝12月22日（土）午後～講師は自治労連県本部（高橋氏）か県職労連（水戸川氏）に依頼。終了後望年会を実施する（予定）。

③ 学習会について

- テレビドラマ「逃げ恥」の評価、共同経営責任者会議の行方 斎藤悦子氏＝お茶の水女子大学准教授（依頼中）。県民センターが1月19日（土）、90人の部屋13時～17時まで取れました。今後事務局会議で具体化します。

④ 未納の会員への継続の意思確認

アンケートの実施、お誘いパンフの刷新。

⑤ 議会傍聴のとりくみ

日程がわかればお知らせする。

自治体学校･女性分科会

とき:2018年11月4日(日)
13時30分～16時30分
ところ:かながわ労働プラザ(JR石川町駅下車)
参加費:全体会/分科会参加は1,000円
(分科会のみは700円)
内容:テーマ「国家が家族に干渉するねらい」
★お話し:「いま、なぜ家庭教育支援法か」
講師:湯山　薫さん(弁護士、川崎北合同法律事務所所属、日弁連　両性の平等に関する委員会 、川崎市男女平等推進審議会委員)
★問題提起
○家庭･地域から考える
○学校から考える
★意見交換

WWFK文化行事

「五日市憲法草案」の地を訪ねる

日時：2018年12月2日（日）
集合：10時30分
JR五日市線武蔵五日市駅改札
行程：五日市憲法草案の碑⇒五日市郷土資料館ほか（昼食は近くのお店で）
＊詳しくは同封のチラシ参照

2018年はたらく女性の神奈川県集会

とき:11月17日(土) 12時30分～16時30分
ところ: 建設プラザ2階　参加費200円
記念講演: 「女性･非正規の排除と民主主義」
講師: 川西玲子さん(NPO法人働き方ASUNET)
★12時～バザー
★3つの分科会あり